



## 年頭のあいさつ

庄原市長 木山耕三

明けまして、おめでとうございます。市民の皆様には、令和初めての新春を穏やかに迎えることと、心からお慶び申し上げます。旧年中は、市政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年も豪雨や台風により、日本各地で甚大な被害が生じました。本市におきましても、平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興に全力を挙げて取り組んでおりますが、いつ、どこで大災害が起こるか分からない今日、防災・減災対策の重要性を再認識するとともに、今後におきましても、自治振興区をはじめ関係団

体との連携のもと、安心・安全なまちづくりに努めてまいります。

さて、市長就任以来、「庄原がいちばん」と実感できるまちづくりに取り組んでまいりましたが、とりわけ令和元年は、粘り強く進めてきた施策が一定の成果として表れたものと受け止めています。

一昨年、合併以来の悲願でありました市内での産科再開が実現し、同年開設した小児科診療所・病児病後児保育施設に加え、昨年7月、子育て支援施設・庄原ひだまり広場の移転新築により、安心して子育てができる環境を提供し、子どもたちを育み、見守る拠点となる「庄原市子ども未来広場」が完成の運びとなりました。【写真1】

また、9月には本市特産品の「比婆牛」が広島県内で初めて、和牛肉では中四国地方で初めてとなる、国の地理的表示保護制度（GI）に登録されました。平成26年の「比婆牛」復活から長い道のりではありましたが、GI登録によりブランドの価値と信頼がさらに高まることとなり、本市の産業振興につながるものと期待しています。【写真2】

さらに、本市が誇る豊富な森林資源を活用した有効・有益な事業の可能性について模索している。その他、主な事業として、4月より子育て世代包括支援センターを設置するとともに、病後児支援事業の拡大や放課後児童クラブ施設の増設を予定しており、妊娠・出産から子育てにおける相談対応と支援の強化を進めてまいります。

さらには、令和3年度末完成予定の新焼却施設本体工事に着手するほか、庄原市民会館および庄原自治振興センターの大規模改修に向けた実施設計に取り組みます。

本年は、市制施行から15周年を迎え、中国四川省綿陽市との友好交流30周年、よいとこ祭40周年、ヒバゴン目撃50周年など、本市にとって記念すべき節目の年であります。また、国内では56年ぶりとなる東京オリンピック・パラリンピックが開催され、5月18日に庄原市では初めてとなる「聖火」が到着し、ランナーとともに駆け抜けます。

こうした歴史的な一年を好機と捉え、夢と誇りを持つ「庄原いちばん」の実現に全力で取り組む所存です。

市民の皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が幸多き一年となりますよう、心より祈念いたしました。年頭のごあいさつといたします。

また、「第2期長期総合計画」ならびに「庄原いちばんづくり」に掲げた施策・事業を着実に積み重ねること、本市の最重要課題である人口減少の抑制をはじめ、さまざまな課題の克服に取り組む決意を新たにしています。



11月 株式会社ウッドワンと庄原材活用のための連携協定締結



9月 比婆牛がGI登録。GIは、製品の品質などの確立した特性が産地と結び付いていることを特定できるようにする、地域ブランドを守るための国の制度。



7月 庄原市子ども未来広場が完成（子育て支援施設「庄原ひだまり広場」完成）



11月 いざなみマラニック 2019～第3回比婆いざなみ街道マラニック～開催（ランナー、スタッフほか総勢 622人が参加）

## 2019年を振り返る

広報しようばらのバックナンバーは、市ホームページからご覧いただけます。



<http://www.city.shobara.hiroshima.jp/main/government/koho/pr/>